

平成23年度 事業報告書

財団法人日本ハンドボール協会

1. 普及指導に関する事業

1) 普及関係

(1)少年チーム活性化推進ブロック会議

北信越	: 8月6日(土)千曲市	四国	: 8月27日(土)高松市
近畿	: 10月23日(日)京都市	東海	: 10月29日(土)豊田市
関東	: 12月10日(土)守谷市	九州	: 12月23日(金)長崎市
中国	: 1月29日(日)総社市	東北	: 2月25日(土)湯沢市

・少年チーム活性化の方策についての情報交換

(2)小学生専門委員会

第1回小学生専門委員会 5月15日(日)日本協会事務局

(ア)第24回全国小学生大会について

(イ)J級指導者講習会について

(ウ)ブロック委員会の開催について

(エ)各種調査について

(オ)大崎スポーツ事業研究助成財団補助による事業展開について

第2回小学生専門委員会 7月29日(金)京都市

(ア)ブロック活動状況報告(大会、交流会、指導員養成等々)

(イ)日韓小学生交流会について

(ウ)ブロック委員会の開催について

(3)中学生専門委員会

第1回中学生委員会 8月16日(火)京都東急ホテル

(ア)各ブロック状況報告

(イ)第20回JOC大会について

(ウ)第7回春の全国中学生ハンドボール選手権大会について

第2回中学生専門委員会 12月24日(土)愛知県体育館

(ア)各ブロック状況報告

(イ)第20回大会の大会運営について(愛知県)

(4)小学生指導要領対策

文部科学省訪問 4月22日(金)文部科学省スポーツ・青少年局

第1回学校体育検討専門委員会 4月23日(土)日本協会事務局

(ア)第14回研究集会実施案検討:講師依頼(文部科学省調査官等)

(イ)委託校選定について

小委員会(打ち合わせ) 7月27日(水)千曲市 杏泉閣

研究集会 7月28日(木)・29日(金)千曲市立埴生小学校(77名)

(ア)授業発表 (イ)実技研修と講義

(5)ビーチハンドボール専門委員会

ビーチハンドボール地区大会

(ア)6月18~19日 第15回スプリングカップ富浦さざ波大会

(イ)8月6~7日 第15回サマーカップ富浦さざ波大会

(ウ)8月7日 第12回ビーチハンドボール大会十符ヶ浦(青森)

(エ)10月9日 東海ビーチハンドボールフェスタ

(オ)10月30日 第1回琉球コラソンビーチハンドボール大会(沖縄)

第 13 回全日本ビーチハンドボール選手権大会
8月27日(土)、28日(日) 兵庫県 アジュール舞子
ビーチハンドボール委員会 8月26日(金) アジュール舞子
(ア)地区大会の充実について
(イ)国際大会への強化対策について

(6) マスターズ専門委員会

第1回中央委員会 4月17日(日) ブラザー体育館

(ア)大阪大会要項について

(イ)大会係割り当て

第19回全日本ハンドボールマスターズ大会 8月5日(金)~8月7日(日)

舞洲運動公園メインアリーナ他

参加チーム 男子53・女子22・11人制13 合計88チーム

第2回マスターズ専門委員会 2月13日(日)12:30~15:00 山梨県甲州市 塩山体育館

(ア)平成24年度第20回全日本マスターズ 大会要項(案)検討

(イ)第20回大会記念行事

(ウ)各ブロック報告

各地区の活動

(ア)第5回東海マスターズ 10月9日(日) 豊田市

(イ)第9回東北マスターズ 10月22日(土) 七戸体育館

(ウ)横浜マスターズ 10月29日(土) 横浜国際プール

(エ)九州マスターズ 2月19日(日) 久留米市体育館

(オ)第5回塩山マスターズ 3月3日(土)、4日(日) 塩山体育館

(カ)第7回近畿マスターズ 3月20日(火・祝) 大阪・長居

2) 指導関係

指導委員会

(1)日体協公認上級コーチ養成専門科目講習会 6月23~26日(NTC:18名)

(2)指導者研修会 Klaus Ferdmann 1月20~22日(NTC、86名参加)

(3)義務研修講習会 8月~9月 NTS ブロックトレーニングと併用

・九州・四国・近畿・北信越・東北・北海道各ブロック

(4)全国指導委員会 1月22日(日)(NTC)

・各ブロックでの研修とNTSとの関わりについて

・各県の指導者研修実施に向けて

(5)公認コーチ専門教科認定大学検定試験 1月20~22日(NTC)

3) 競技者育成技術委員会

競技者育成技術委員会開催

平成23年4月3日(日)~平成24年1月25日(水) 合計10回開催

(テクニカルグループ内容検討会を含む)

・NTS、指導委員会、審判部との連携事業の具体化

・日本のハンドボールの姿検討・・・NTSを柱として各部の事業を効果的な実施計画作成

2. 競技運営に関する事業

1) 主要大会の管理・運営 (斜体は国際大会)

月	大会名	開催日程	開催地	結果
6月	ジャパンカップ2011 東京大会	6/4-6	東京体育館	東日本大震災の影響により中止
7月	高松宮記念第1回全日本社会人選手権	7/13-17	函館市民体育館 他	男子:1;大同特殊鋼 2;トヨタ車体 3;大崎電気 女子:1;北國銀行 2;私団 3;広島メイプルズ
	第31回全国クラブ選手権 西地区	7/16,17	静岡エコパアリーナ	男子:1;総社クラブ 2;ホダ 熊本 3;三重クラブ 女子:1;トヨタ 2;OCEAN 3;アサヒ
	第31回全国クラブ選手権 東地区	7/16,17	本宮市総合体育館 他	男子:1;渡辺組 2;上送 3;蓮田クラブ、ラジエト 女子:1;筑波学園 2;やんちゃ 3;SAKURA 福島
	第16回アジア国際大会	7/22-24	広島市・東区SC	1;日本 2;広島メイプルズ 3;大阪体育大 4;KIF Vejen
	第24回全国小学生大会	7/29-8/3	京田辺市田辺中央体育館 他	男子:1;田辺東小 2;東久留米 3;木田ブルー 2000 女子:1;浦城 2;桃園小 3;上庄
	高松宮記念杯第62回全日本高校選手権大会	7/29-8/3	花巻市総合体育館 他	男子:1;小林秀峰 2;藤代紫水 3;下松工業、法政大二 女子:1;華陵 2;高岡向陵 3;佼成学園女子、四天王寺
8月	第19回全日本マスターズ大会	8/5-7	大阪市舞洲運動公園体育館 他	男子:1;下松クラブ 2;GG'S 3;オールドフェイス 女子:1;御座姐 2;富山エンジェルス 3;小松クラブ
	第16回ジャパンオープンナショナル 岐阜県国体杯大会	8/6-9	飛騨高山ビッグアリーナ 他	男子:1;Honda 2;長崎社中 3;HC岡山 女子:1;香川銀行 T・H 2;HC高山 3;徳山クラブ
	第40回全国中学校大会	8/18-20	京都市ハンナリーズアリーナ 他	男子 1;平針中 2;手代木中 3;鹿骨中、西條中 女子 1;東久留米西中 2;松橋中 3;仲西中、滝ノ水中
	第38回全国高等専門学校選手権大会	8/27-28	川崎市とどろきアリーナ	1;徳山高専 2;熊本高専八代 3;豊田高専、函館高専
	第13回全日本ビーチボート選手権大会	8/27、28	神戸アジュール舞子浜	男子:1;ボンチフェローズ 2;FST 3;日体大、 女子:1;日体大 2;あぶらおおめ 3;風見鶏クラブ
9月	日韓スポーツ交流(受入/男子)	9/18-23	岐阜市・ヒマラヤアリーナ 他	
	第15回日韓スポーツ交流(受入/女子)	9/21-26	名古屋市・ブラザー工業体育館	
	第4回女子ユースアジア選手権(2012WC予選)	9/23-28	熊本県山鹿市総合体育館	1;韓国 2;日本 3;タイ 4;イラン 5;カメル
	第66回国民体育大会	10/7-11	札幌パレッセ 周南総合体育館 他	成年男子:1;佐賀県 2;広島県 3;愛知県 4;埼玉県 成年女子:1;石川県 2;熊本県 3;広島県 4;山口県 少年男子:1;沖縄県 2;山口県 3;岩手県 4;愛知県 少年女子:1;山口県 2;香川県 3;東京都 4;沖縄県
10月	第36回日本リーグ・レギュレーション	10/29-3/4	各地	男子:1;大崎電気 2;トヨタ車体 3;大同特殊鋼 4;湧永製薬 女子:1;北國銀行 2;私団 3;ユニオンクラブ

11月	高松宮記念杯男子第 54 回女子第 47 回全日本学生選手権大会	11/2-6	花巻市総合体育館他	男子:1;日体大 2;早稲田 3;明治大、関西大 女子:1;大体大 2;大教大 3;武庫川、日体大
12月	第 63 回全日本総合選手権大会	12/21-25	横浜国際プール	男子:1;トヨタ車体 2;大同特殊鋼 3;大崎電気、日体大 女子:1;オムロン 2;ユニセコダクタ 3;北國銀行、広島メイプル
	第 20 回 JOC ジュニアライトカップ	12/25-28	愛知県体育館他	男子:1;沖縄県 2;名古屋市 3;富山県、東京都 女子:1;東京都 2;埼玉県 3;山口県、大分県
2月	全日本社会人チャレンジ 2012	2/10-12	大同特殊鋼星崎工場体育館他	1;トクヤマ 2;八光自動車工業 3;トヨタ自動車
3月	第 36 回日本リーグプレーオフ	3/12-13	駒沢体育館	男子:1;大同特殊鋼 2;大崎電気 3;トヨタ車体、湧永製薬 女子:1;オムロン 2;北國銀行 3;ユニセコダクタ
	第 7 回春の全国中学生選手権大会	3/25-28	氷見市ふれあいスポーツセンター他	男子:1;滝尾中 2;豊中一中 3;氷見南部中、鹿骨中 女子:1;けやき台中 2;氷見十三中 3;光陽中、仲西中
	第 35 回全国高等学校選抜大会	3/25-30	花巻市総合体育館他	男子:1;北陸 2;不来方 3;藤代紫水、岩国工業 女子:1;華陵 2;四天王寺 3;大分鶴崎、小松市立

2) その他の事業

- (1) 全日本社会人連盟第 1 回理事会
- (2) HP 上に平成 23 年度大会運営マニュアルを掲載
- (3) 平成 23 年度マッチバイザーの任務他各種通達
- (4) 平成 23 年度チーム・選手・チーム役員登録業務
- (5) 競技運営連絡協議会(東京) の開催
- (6) 国民体育大会正規視察(愛媛県)
- (7) 直接大会を管理した(ジャパンオープン、国民体育大会、全日本総合選手権、春中大会)
- (8) 全国高等学校選抜大会移行の検討
- (9) 日本選手権(仮称)実施の検討

3. 国際に関する事業

1) 日本代表チーム派遣及び国際会議に関する事業

日程	カテゴリー / 参加者	大会名称	開催地
4月	男女リーグ	第 8 回東アジアクラブ選手権	中国(山東省)
		EAHF 会議	中国(山東省)
	男女代表	日韓定期戦 2011	韓国(ソウル)
5月	市原副会長 蒲生常務理事 ネメシュ・ローランド	第 33 回 IHF 通常総会 AHF 総会	モロッコ(マラケシュ)
	植村審判長	AHF 競技役員(TD)研修	UAE(ドバイ)
	審判/本田・田淵	国際審判養成 GRTP コース	UAE(ドバイ)
6月	男女代表	ジャパン・カップ 2010 中止	日本(東京)
	審判/太田・島尻	IHF/AHF チャレンジトロフィー	カザフスタン(アルマトイ)

	仲田参事	AHFPRC ミーティング	UAE(ドバイ)
7月	女子代表	第16回ヒロシマ国際	日本(広島)
9月	女子ジュニア	第11回女子ジュニアアジア選手権	カザフスタン(アルマトイ)
	審判/本田・田淵	第11回女子ジュニアアジア選手権	カザフスタン(アルマトイ)
	女子ユース	第4回女子ユースアジア選手権	日本(熊本)
	審判/河合・臼井	第4回女子ユースアジア選手権	日本(熊本)
	女子U-16	日韓スポーツ交流(派遣)	韓国(ソウル)
	女子U-16	日韓スポーツ交流(受入)	日本(名古屋)
	男子U-16	日韓スポーツ交流(受入)	日本(岐阜)
10月	男子U-16	日韓スポーツ交流(派遣)	韓国(ソウル)
	女子代表	オリンピック女子アジア予選	中国(常州)
	男子代表	オリンピック男子アジア予選	韓国(ソウル)
	審判/檜崎・池淵	オリンピック男子アジア予選	韓国(ソウル)
	役員/後藤参事	オリンピック男子アジア予選	韓国(ソウル)
		EAHF 会議	韓国(ソウル)
12月	女子代表	第20回女子世界選手権	ブラジル(サンパウロ)
	審判/檜崎・池淵	第20回女子世界選手権	ブラジル(サンパウロ)
	渡邊会長	IHF 理事会	ブラジル(サンパウロ)
1月	男子代表	第15回男子アジア選手権	サウジアラビア(ジェッダ)
	審判/檜崎・池淵	第15回男子アジア選手権	サウジアラビア(ジェッダ)
	川上専務理事	AHF 臨時総会	サウジアラビア(ジェッダ)

以上の行事への参加申請手続き・参加費等の精算・渡航手続きなど事務全般

2) 国際会議等ならびに派遣に関する事業

(1) IHF 関係

IHF 総会が、モロッコで開催され会長、副会長、国際担当常務理事、参事が出席
IHF 総会での議事賛否について、機関決定(会長一任)
IHF に対しての諸連絡と加盟各国連盟との協力関係強化
IHF 総会、理事会での議事内容翻訳
IHF スクールプロジェクトレクチャーの派遣協力実施
各種大会や役員・レフェリー派遣業務の連絡調整全般
* IHF に関する事務的なエントリーなど手続き・諸連絡

(2) AHF 関係

AHF 総会出席
アジア女子ユース選手権大会招致実施
AHF レフェリーコース開催誘致
テクニカルデレゲートならびにレフェリー派遣
各カテゴリーのアジア選手権参加のサポート
* AHF に関する事務的なエントリーなど手続き・諸連絡
* テクニカルデレゲート・審判・アンチドーピング委員派遣などに関する連絡
* AHF 会議議題・議事録の翻訳

(3)EAHF 関係

4月 EAHF 会議(中国)

* EAHF 会議議題・議事録の翻訳

* EAHF に関する連絡

3) 各国との友好促進その他の事業

(1)祝電、礼状、お見舞い等各国連盟に送付

(2)ルール改正に関する調査報告(IHF 規定・AHF 規定など)

(3)国際移籍等に関する連絡(移籍証明書の発行など)

(4)JOC 国際人養成プロジェクトに国際委員会から派遣した。

(5)翻訳業務

* 大会要綱の翻訳

* 海外大会情報の翻訳及び掲示

4 . 競技規則 (審判) に関する事業

1) 【基本方針】の報告

(1) レフェリーアカデミーの実質的な運用

JHAレフェリーコースおよびA/B 級公認審判員審査会とレフェリーアカデミーとの関係と体系化を図る。しかし、コース、審査会ともに20代前半の受験生がいないため、今後のアカデミー受講者としてヤングレフェリープロジェクトの充実を図り、その修了生をアカデミー受講者とする必要がある。

全日本学生連盟との関係と体系化の強化を図る。学生連盟と連携を取り、レフェリーアカデミー受講生の特別推薦を認めるなど、各地区学生連盟との連携を模索する必要がある。

NTS・JHAジュニアアカデミーとの関係を図る。両事業の中でレフェリー部門事業のありかたについて再考を要する。

(2) トップレフェリーの資質向上および育成

レフェリー育成事業の実施および充実に努める。11月のJHL女子チャレンジリーグ(広島市)と、1月のJHLウインターキャンプ(男子)を使い、トップレフェリー研修会およびレフェリーコースを実施した。

トップレフェリー研修会を開催する。7月にANTCでJHA/JHL合同審判員研修会を開催し、約90名の参加があった。日本サッカー協会から西村雄一国際審判員とモチベーショントレーニング法のために松葉俊夫氏を招聘した。ほか、映像資料を用いたレフェリング研修や競技規則研修を行い、レフェリーアカデミー受講生の海外派遣報告、レフェリーの体力に関する科学的アプローチの報告を行った。

IHF-GRTP日本開催を検討・調整

(3) 競技規則の正しい運用

「審判員の目標」を徹底

国際事情の分析および迅速な伝達

11月末にIHFより通達された競技規則解釈を翻訳し、慎重な検討と翻訳を行い、文書として速やかに通達するとともに、1月審判部合同委員会で解説を行った。

競技規則必携およびDVD(解説書)の発行

競技規則必携は現在作成中であり、平成24年8月頃に発刊できる予定である。また、審判初級者を対象としたDVDを作製した。

2) 【重点施策】について

(1)レフェリーアカデミーの推進

各全国大会においてアカデミー生が吹笛する機会を増やすことができた。

(2)レフェリー講習会の内容充実と競技規則の正しい運用

各ブロックおよび各都道府県において審判研修会を実施しているが、通達事項が正しく伝わっていないことがあり、伝達を徹底させる方策を検討しなければならない。また、レフェリーのみならずトレーナー、選手に競技規則を正しく理解してもらうため、各地区のレフェリー講習会への参加促進を今後の課題にしたい。

(3)IHF レフェリー講習会への参加準備(コンチネンタルの資格を有する者への指導)

(4)競技者登録同様に審判員登録の期日内登録を徹底

(5)アカデミー生の積極的な起用と女子レフェリーの育成と全国大会へのノミネート

(6)継続行事の実施

平成 23 年度登録公認審判員数 2,834 名(前年度 +57 名)

公認審判員上級審査結果

(ア)A 級審査は、全国クラブ選手権東地区をモデルに、B 級は北地区(福島県)・東地区(埼玉県)・中地区(大阪府)・西地区(鹿児島県)の 5 地区にて実施。結果は下記のとおり。

	A 級	B 級
審査申請者	34 名	74 名
書類不備者	0 名	6 名
欠席者	12 名	2 名
筆記不合格者	2 名	16 名
実技不合格者	7 名	10 名
体力不合格者	0 名	0 名
合格者数	13 名	40 名

(イ)レフェリーコース受験状況

前期 期 日 8 月 15 日(月)～17 日(水)

モデル 長浜ドーム大会

場 所 滋賀県 長浜市 長浜ドーム

担当者 越田(審査指導委員長)、藤井(審査指導委員)、吉田(社会人審判長)、

後期 期 日 3 月 23 日(金)～25 日(日)

モデル 西日本医歯薬大学選手権

場 所 京都府立山城総合運動公園太陽が丘体育館

担当者 越田(審査指導委員長)、岸本(審査指導委員)、浅井(開催学連審判長)
川島(前審査指導委員長)

受講生 12 名(大学生 10 名、専門学校生 1 名、高校生 1 名)

B 級認定者 3 名

不合格 9 名

(ウ)社会人レフェリーコース受験状況

期 日 2 月 10 日(金)～11 日(土)

モデル 社会人チャレンジカップ大会

場 所 愛知県 名古屋市 大同特殊鋼体育館
 再試験 期日：3月16日(金) 会場：名古屋市(大同特殊鋼2名)
 担当者 越田(審査指導委員長)、岸本(審査指導委員)
 受験生 3名(大同特殊鋼2名、湧永製薬1名)
 B級認定者 3名

(オ)JHA レフェリーコース研修会

JHL チャレンジリーグ(女子の部)

期 日 11月18日(金)～20日(日)
 会 場 広島県 広島市 中区スポーツセンター・広島経済大学体育館
 受講生 12名(山口県2名、広島県2名、アカデミー生 8名)
 担当者 越田(審査指導委員長)、藤井(審査指導委員)

JHL ウィンターキャンプ(男子の部)

期 日 1月20日(金)～22日(日)
 会 場 福井県 永平寺町 北陸電力体育館フレア
 受講生 アカデミー生
 担当者 アカデミースタッフ

(カ)レフェリーアカデミー(活動報告)

- 第1回 期 日 7月3日(土)、4日(日)
 場 所 味の素ナショナルトレーニングセンター
 内 容 講義、実技、他競技国際審判員講義、モチベーショントレーニング法の講義および実技、JHL トップレフェリー合同講習会
 参加者 スタッフ、審査指導委員、各ブロック審判長、アカデミー生
- 第2回 期 日 8月27日(土)、28日(日)
 場 所 味の素ナショナルトレーニングセンター
 内 容 講義、実技
 参加者 スタッフ、池淵国際審判員、アカデミー生
- 第3回 期 日 10月1日(土)、2日(日)
 場 所 京都府立山城運動公園太陽が丘体育館
 内 容 講義、実技、関西大学連盟の大会を吹笛
 参加者 スタッフ、仲田国際委員、檜崎国際審判員、アカデミー生
- 第4回 期 日 11月19日(土)、20日(日)
 場 所 広島市 中区スポーツセンター 広島経済大学体育館
 内 容 講義、実技、JHL 女子強化大会を吹笛
 参加者 スタッフ、審査指導委員、アカデミー生
- 第5回 期 日 12月21日(水)～25日(日)
 場 所 神奈川県 横浜市 横浜国際プールスポーツフロア
 内 容 全日本総合選手権大会 審判員および観戦
 参加者 スタッフ、審査指導委員、トップレフェリー、アカデミー生
- 第6回 期 日 1月20日(金)～22日(日)
 場 所 福井県 永平寺町 北陸電力体育館フレア
 内 容 JHL ウィンターキャンプ大会を吹笛
 参加者 スタッフ、アカデミー生

- 総 評 -

第2期目となったレフェリーアカデミーは年間6回行った。アカデミー生も2年目で、個々の課題も明確となり、それぞれに合った指導ができた。各個人のやる気も増えてきており、毎回新たな課題に取り組めるようになった。長いスパンで、個々にあった（性格含め）指導の重要性を痛感した。アカデミー生は技術も伸びており、日本のトップ集団に入ってきているので、今後も継続的な指導が必要である。

3) 審判員評価

- (1)第62回全日本高等学校選手権大会参加審判員評価(岩手県) 審判審査指導委員3名派遣
- (2)第66回おいでませ！山口国民体育大会審判員評価(山口県) 審判審査指導委員2名
- (3)第63回全日本総合選手権大会審判員審査(東京都) 審判審査指導委員6名派遣
- (4)第35回全国高等学校選抜大会(岩手県) 審判審査指導委員2名派遣

4) 国際審判員の登録・派遣

- ・IHF登録審判員(1ペア) 池淵・檜崎ペア
- ・AHF登録審判員(3ペア) 本田・田淵ペア、太田・島尻ペア、佐々木・安田ペア

(1)国際試合と海外派遣

(ア)国際審判員養成 GRTP コース

期 日 5月29日(日)～6月4日(土)
場 所 UAE ドバイ
指 名 本田・田淵ペア

(イ)IHF/AHF チャレンジトロフィー

期 日 6月10日(金)～13日(月)
場 所 カザフスタン アルマトイ
指 名 太田・島尻ペア

(ウ)第11回女子ジュニアアジア選手権

期 日 9月14日(水)～20日(火)
場 所 カザフスタン アルマトイ
指 名 本田・田淵ペア

(エ)第4回ユースアジア選手権

期 日 9月23日(金)～28日(水)
場 所 熊本
指 名 河合・臼井ペア(アカデミー)

(オ)2012 ロンドンオリンピック男子アジア予選

期 日 10月23日(日)～11月2日(水)
場 所 韓国 ソウル
指 名 池淵・檜崎ペア

(カ)第20回女子世界選手権

期 日 12月2日(金)～18日(日)
場 所 ブラジル サンパウロ他
指 名 池淵・檜崎ペア

(キ)第15回男子アジア選手権

期 日 1月26日(木)～2月5日(日)
場 所 サウジアラビア ジェッダ

指 名 池淵・檜崎ペア

5) 会議・委員会

(1) 審査指導委員会

(ア) 第1回審判審査指導委員会

期 日 10月15日(土)、16日(日)
場 所 東京目黒区東山 大橋会館
内 容 A・B級受験状況および審査結果の検討、レフェリーコース前期受験
状況報告、総合選手権大会審判員ノミネート、審判指導内容の検討
と資料作り

(イ) 第2回審判審査指導委員会

期 日 12月23日(金)、24日(土)
場 所 神奈川県横浜市 横浜国際プール
内 容 2012年競技規則必携(改訂)について
改正内容確認および検討、改正内容の伝達方法について

(ウ) 第3回審判審査指導委員会

期 日 1月20日(金)
場 所 味の素ナショナルトレーニングセンター
内 容 平成24年度A・B級受験申請書類審査、審判部合同委員会議準備

(2) 審判部合同会議

期 日 1月21日(土)、22日(日)
場 所 味の素ナショナルトレーニングセンター
参加者 審判部長、競技運営部長、審判審査指導委員会、各ブロック審判長、
各連盟審判長、競技規則研究専門委員長、審判国際専門委員長、視聴
覚専門委員長、日本リーグ審判部長、審判総務専門委員長および審判
総務専門委員
内 容 平成23年度諸活動の総括、平成24年度活動の検討、競技規則改正
点の解説

5. 競技力向上(強化)に関する事業

1) 国際大会・国際交流親善試合

チーム名	大会名	日 程	場 所	結 果
男子代表	日韓代表国際交流 定期戦 2011	4/24	韓国・光明市	日本 24 (10 - 18, 14 - 12) 30 韓国
女子代表				日本 18 (11 - 17, 7 - 15) 32 韓国
男子代表	2012 ロンドンオリン ピック男子アジア予選	10/23-11/2	韓国・ソウル市	1;韓国 2;日本 3;イラン 4;サウ ジアラビア 5;カタール 6;中国 7;クウェート 8;オマーン 9;ウ ズベキスタン 10;カザフスタン
女子代表	2012 ロンドンオリン ピック女子アジア予選	10/12-10/21	中国・常州市	1;韓国 2;日本 3;中国 4;北朝鮮 5;カザフスタン 6;トルクメニ スタン

女子 U-20	第 11 回女子ジュニア アジア選手権	9/14-9/20	カザフスタン・ アルマトイ	1; 韓国 2; 中国 3; カザフスタン 4; 日本 5; チャイニーズタイペイ 6; イラン 7; ウズベキスタン 8; 香港
女子 U-18	第 4 回女子ユース アジア選手権	9/23-9/28	日本・熊本県	1;韓国 2;日本 3;カザフスタ ン 4;イラン 5;カタール
女子 U-16	第 15 回日韓スポーツ 交流(派遣)	9/15-9/20	韓国・馬山市	日本 22 (6 - 13,16 - 16) 29 韓国
男子 U-16	日韓スポーツ交流 2011 (派遣)	10/29/-11/3	韓国・ソウル	日本 41 (17 - 23,24 - 24) 47 韓国
女子 U-16	第 15 回日韓スポーツ 交流(受入)	9/21-9/26	日本・愛知県	日本 31 (14 - 14,17 - 16) 30 韓国
男子 U-16	日韓スポーツ交流 2011 (受入)	9/18/-9/23	日本・岐阜県	日本 30 (15 - 16,15 - 18) 34 韓国
男子代表	第 15 回男子アジア選手権	1/26-2/5	サウジアラビア・ ジェッダ	1;韓国 2;カタール 3;サウジア ラビア 4;日本 5;イラン 6;パー レーン 7;UAE 8;クウェート 9; ヨルダン 10;ウズベキスタン
女子代表	第 20 回女子世界選手権	12/2-12/18	ブラジル・サン パウロ	1;ノルウェー2;フランス 3;ス ペイン 4;デンマーク 5;ブラジ ル 6;ロシア 7;クロアチア 8;ア ンゴラ 9;スウェーデン 10;モン テネグロ 11;韓国 12;アイスラ ンド 13;ルーマニア 14;日本 15; オランダ 16;コートジボワール 17;ドイツ 18;チュニジア 19;カ ザフスタン 20;ウルグアイ 21; 中国 22;キューバ 23;アルゼン チン 24;オーストラリア

2) 海外強化合宿

チーム名	事業名	日 程	場 所	参加人数計(役員、選手)
男子代表	欧州遠征 A	7/31-8/8 8/8-8/30	ポーランド デンマーク	28 名(役員 5 名、選手 23 名)
女子代表	欧州遠征 A	7/31-8/15	フランス	21 名(役員 3 名、選手 18 名)
女子代表	欧州遠征 B	9/15-10/2	フランス	21 名(役員 3 名、選手 18 名)
男子代表	オリンピック予選 直前欧州遠征	9/30-10/16	デンマーク	23 名(役員 5 名、選手 18 名)
男子代表	欧州遠征 B	1/18-1/25	カタール バーレーン サウジアラビア	23 名(役員 5 名、選手 18 名)
男子代表	欧州遠征 C	3-19-3/31	デンマーク	23 名(役員 5 名、選手 18 名)
女子 U20	海外直前合宿	9/9-9/13	カザフスタン	21 名(役員 5 名、選手 16 名)

3) 国内強化合宿（男女代表）

チーム名	場 所	日 程	参加人数(役員・選手)	ドクター	トレーナー
男子代表	第1回 ANTC	4/5-4/23	39名(役員7名、選手28名)		赤尾和彦
	第2回 ANTC	5/2-5/12	32名(役員7名、選手25名)		赤尾和彦
	第3回 ANTC	5/17-5/27	30名(役員7名、選手23名)		赤尾和彦
	第4回 ANTC	6/1-6/15	30名(役員7名、選手23名)		赤尾和彦
	第5回 ANTC	6/19-7/6	28名(役員5名、選手23名)		赤尾和彦
	第6回紋別	7/17-7/22	25名(役員6名、選手19名)		赤尾和彦
	第7回 ANTC	7/27-7/30	28名(役員5名、選手23名)		赤尾和彦
	第8回 ANTC	9/8-9/10	27名(役員5名、選手22名)		赤尾和彦
	第9回 ANTC	9/13-9/30	30名(役員5名、選手25名)		赤尾和彦
	第10回 ANTC	10/17-10/20	28名(役員5名、選手23名)		赤尾和彦
	第11回 ANTC	1/6-1/17	23名(役員5名、選手18名)		赤尾和彦
	第12回 ANTC	3/12-3/19	31名(役員5名、選手23名)		赤尾和彦
女子代表	第1回 ANTC	4/11-4/22	28名(役員5名、選手23名)		高野内俊也
	第2回 ANTC	5/9-5/28	32名(役員5名、選手27名)		高野内俊也
	第3回熊本・宮崎	6/6-7/2	23名(役員5名、選手18名)		高野内俊也
	第4回広島	7/17-7/21	23名(役員5名、選手18名)		高野内俊也
	第5回 ANTC	8/22-9/14	21名(役員3名、選手18名)	-	高野内俊也
	第6回 ANTC	10/2-10/10	21名(役員3名、選手18名)	-	高野内俊也
	第7回 ANTC	11/15-11/29	21名(役員3名、選手18名)	-	高野内俊也
	第8回 ANTC	3/26-3/31	21名(役員3名、選手18名)	-	高野内俊也

4) 国内強化合宿（男女ジュニア）

チーム名	場 所	日 程	参加人数(役員・選手)	ドクター	トレーナー
男子 U-22	第1回 ANTC	6/17-6/19	24名(役員5名、選手19名)		
女子 U-20	第1回 ANTC	7/7-7/10	29名(役員4名、選手25名)		
女子 U-18	第1回 ANTC	7/7-7/10	28名(役員4名、選手24名)		
男子 U-22	第2回 ANTC	7/15-7/17	25名(役員6名、選手19名)		—
男子 U-16	第1回 ANTC	8/29-9/1	20名(役員4名、選手16名)		—
女子 U-20	第2回 ANTC	8/22-8/25	21名(役員5名、選手16名)		市川央人
女子 U-20	第3回 ANTC	9/3-9/8	21名(役員5名、選手16名)		市川央人
女子 U-18	第2回 ANTC	8/11-8/14	20名(役員4名、選手16名)		—
女子 U-16	第1回 ブラザー工業	9/13-9/14	22名(役員3名、選手16名)		—
女子 U-18	第3回 武庫川女子大学	9/10-9/21	20名(役員5名、選手15名)	有田 忍	花岡美智子

5) ドクター・トレーナー帯同（遠征・大会）

チーム名	遠征・大会名	日 程	場 所	ドクター	トレーナー
男子代表	日韓代表国際交流定期戦 2011	4/24	韓国・光明市		赤尾和彦
女子代表	日韓代表国際交流定期戦 2011	4/24	韓国・光明市		高野内俊也
女子代表	第16回ヒロシマ国際	7/22-7/24	日本・広島県		高野内俊也
女子 U-20	第11回女子ジュニアアジア選手権	9/14-9/20	カザフスタン・アルマトイ	沖本信和	市川央人
女子 U-18	第4回女子ユースアジア選手権	9/23-9/28	日本・熊本県	有田 忍	花岡美智子
女子 U-16	第15回日韓スポーツ交流(派遣)	9/15-9/20	韓国・馬山市		宇賀神奈央

男子U-16	日韓スポーツ交流 2011 (派遣)	10/29-11/3	韓国・ソウル		大城一樹
女子U-16	第 15 回日韓スポーツ交流(受入)	9/21-9/26	日本・愛知県		宇賀神奈央
男子U-16	日韓スポーツ交流 2011 (受入)	9/18-9/23	日本・岐阜県		大城一樹
男子代表	2012 ロンドンオリンピック男子アジア予選	10/23-11/2	韓国・ソウル市	沖本信和	赤尾和彦
女子代表	2012 ロンドンオリンピック女子アジア予選	10/12-10/21	中国・常州市	佐久間克彦	高野内俊也
男子代表	第 15 回男子アジア選手権	1/26-2/5	サウジアラビア・ジェッダ	沖本信和	赤尾和彦
女子代表	第 20 回女子世界選手権	12/2-12/18	ブラジル・サンパウロ	佐久間克彦	高野内俊也
男子代表	欧州遠征 A	7/31-8/8 8/8-8/30	ポーランド デンマーク		赤尾和彦
女子代表	欧州遠征 A	7/31-8/15	フランス		高野内俊也
女子代表	欧州遠征 B	9/15-10/2	フランス		高野内俊也
男子代表	オリンピック予選 直前欧州遠征	9/30-10/16	デンマーク		赤尾和彦
男子代表	欧州遠征 B	1/18-1/25	カタール バーレーン	沖本信和	赤尾和彦
男子代表	欧州遠征 C	3-19-3/31	デンマーク		赤尾和彦

6) NTS(ナショナルトレーニングシステム)

(1)ブロックトレーニング(9 ブロック)の実施

小・中・高それぞれ男女約 1,000 名

(2)セナートレーニングの実施

各ブロック推薦の中・高、男・女各 50 名をナショナルスタッフで書類審査し、各 30 名程度を選抜し、2012 年度 JHA ジュニアアカデミーの育成選手の選考を行った。

(3)今年度より、小学生 NTS 全国講習会を実施

7) JOC ジュニアオリンピックカップ大会

男子優勝：沖縄県選抜 女子優勝：東京都選抜

オリンピック有望選手の選考

男子 野村 雄也 (熊本県：松橋中学校)

女子 竹原 千賀 (熊本県：松橋中学校)

河原畑 祐子 (東京都：東久留米西中学校)

8) 日本代表チーム

(1)平成 23 年度はロンドンオリンピックアジア予選の為、オリンピック出場に向け重点的に予算配分した。

(2)海外、国内での国際試合や日本リーグチームとのトレーニング試合を実施した。

(3)少数精鋭&重点強化体制で ANTC を活用し着実な運営ができた。

(4)日本リーグチームとの連携強化を図りスタッフ間との情報を共有した強化ができた。

(5)大会の成績は次のとおりであった

・日韓代表国際交流定期戦(男女)

男女とも韓国に敗れ厳しい戦いであった。プレーオフ後の大会で全てのメンバーが揃わない状況であった。ロンドン予選の年でもあるが底辺強化を再構築する必要を痛感し、いかなる状況でも対応できる強化の必要を再確認した。

・2012 ロンドンオリンピックアジア予選（男女）

男女とも2位という結果で、アジア代表としての切符を獲得できなかった、男子は初戦の韓国戦に大敗したが、残りの試合を良く立て直し決勝戦の韓国とは互角の戦いで世界最終予選の出場権を獲得。女子は、中国、カザフスタンに勝利し、最終戦の韓国戦は終始リードしていたものの勝つ事が出来なかったが、今後のアジアでの戦い方に手ごたえを感じた。

・第20回女子世界選手権

予選リーグでルーマニアに最後の20秒で同点に追いつき引き分け、60分間フルに戦う体力向上が評価できた内容であった。またデンマークとの戦いも70分間死闘を演じ勝利目前で逆転されたが、世界最終予選に繋がる戦いであった。24カ国中14位で大会を終了。

・第15回男子アジア選手権

4位の成績で世界選手権の切符を獲得できず、課題の残る戦いであった。中東各国はヨーロッパの監督を招聘し強化に努めている。韓国が苦戦しながらも優勝しており、日本としても底辺強化を再構築する課題を痛感した大会であった。

・第14回ヒロシマ国際大会

女子の大会として開催されデンマークよりチームを招聘しメープル、大阪体育大学、日本代表で戦い、日本代表が全勝で優勝。タイプの違うチームと対戦し今後の強化に結びついた大会であった。

9) under 代表チーム

- (1)年齢カテゴリー別の体制でNTS・JHA ジュニアアカデミーと連携して強化ができた。
- (2)代表チームをはじめ under チームスタッフは、ナショナルスタッフチームとした。
- (3)カテゴリー強化合宿・NTS などによって指導育成した結果、次のとおりであった。

・第11回女子ジュニアアジア選手権 兼 2012WC予選 4位 WC出場獲得

大変厳しい戦いであったが4位でWCの切符を獲得できた。今後代表として活躍する選手達であるため、今後はアジアで必ず韓国に勝つ精神面の強化の必要性を感じた。

・第4回女子ユースアジア選手権 兼 2012WC予選 2位 WC出場獲得

U-18カテゴリーは1番強化しなければならない年代である。あるところまでは各強豪国と戦うことができるが、最終的には体格の部分で敗退する従来の反省課題と変わっていない。国内での男子との試合等を含め体格面での強化策の必要性を感じた。

・日韓スポーツ交流 2011（男子）

U-16のカテゴリーはアジアで今後戦う中でイニシアチブを取る大切な年代である。いかなる試合でも、勝つ事を念頭に置き戦う教育を叩き込む事が大切である。そうする事で各カテゴリーの共通認識となりアジアNO1 結びつく。

・第13回日韓スポーツ交流（女子）

この年代から韓国に勝利するか、それに等しい試合内容でなければ、上のカテゴリーの強化にも繋がらない。精神面等も含め全体的に徹底させる必要がある。韓国はスタッフも含めこの年代から勝負に対する執念が違う。

10) 分析活動および体力向上策

情報科学委員会活動として、国立スポーツ科学センターの強力なバックアップによって分析活動を実現。予算についても、大きな支援をいただいた。また、味の素NTCのモデルとして競技団体毎の体力向上策の一環として、体力測定モデル化を推進した。

11) ドーピング活動

社会人選手権・全日本学生選手権・日本リーグ・全日本総合で、ドーピングコントロールを実施。

12) JHA ジュニアアカデミー

男女アカデミー生がジュニア、ユース、日韓交流試合の中心選手となりアジア選手権等の試合で活躍し、日本協会強化部が目指すジュニア世代からの強化に成果を残してきた。また、JHA ジュニアアカデミー選抜として「全日本総合選手権」に参加し、レベルの高い試合を国内でも経験することができ、選手たちの意識も高く保てるようになってきた。

6. 機関誌発行に関する事業

1) 年9回の発行を行った。

1ヶ月平均発行部数 約5,000部

(年1回登録小学校へ無料配布 約400部)

2) 広告協賛 16社(伊藤超短波も含む) 毎号掲載は15社

3) 機関誌の内容を充実

- (1) 自らの取材による記事の掲載(全日本総合・プレ-初・イカ・インター-川・車椅子・NTS等)
- (2) 委員会の連載継続(医事・審判・コーチング研究会・学校体育等)
- (3) インターネット情報との密接な連携
- (4) 企画記事(欧州事情、ロンドンに向けて等)

7. 企画に関する事業

- 1) 各事業が実行計画に基づき確実に実行できるよう支援をした
- 2) 日韓定期戦の運営に関する課題の抽出をおこなった
- 3) JAPAN CUP 2012 TOYOTA GAMES を企画した

8. 広報に関する事業

1) 広報

(1) 広報年間スケジュールに基づき活動を行った

定期記者発表2回(日本リーグ、日本リーグプレーオフ)

臨時記者発表1回、代表合宿メディア公開7回

プレスリリース(メールリリースも含め)159回

(男女日本代表情報、各カテゴリー国際大会、国内大会他)

ナショナルチームの情報公開

(2) インターネット発信(ホームページ)の充実を図った

(3) マスコミ(テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、ライター他)の取材調整を行った(61件)

(4) 東京記者クラブハンドボール分科会との意見交換を行った

(5)大会写真撮影にカメラマンを5大会派遣

2) インターネット

(1)日本協会ホームページの充実を図った

情報発信のスピード化を推進した(大会結果速報用に掲示板を利用した)

更新頻度の増加を図った

(2)メディアへの露出についてホームページを通じて告知した

(3)コンテンツ作成の効率化を図った

9. 財務・会計に関する事業

平成23年度は、平成22年度に引き続き財政状況を取り巻く環境は厳しい状況の中で、縮小均衡を前提に緊縮財政を組まなければならない状態であった。収入面では、一般登録料の増収はあったものの、マーケティング事業や物品販売収入が、目標額を下回る結果となった。支出面では、各事業の見直し、効率的な予算執行、補助金の効率的な運用に取り組んだが、新規事業として女子ユースアジア選手権を開催したこと、また、オリンピック出場に向け欧州遠征、国内合宿と強化に注力したことなどにより当期収支差額は、31,762千円となった。

10. 日本リーグに関する事業

1) 地域と共に発展する日本リーグを目指す

(1)開催地責任者・GM合同会議を開催し、講師として(株)セレスポ・スポーツ事業部を招き、第35回日本リーグプレーオフ開催マニュアルを基に「開催マニュアル」の必要性と作成方法について講義を頂いた。

マニュアルを作成、配布することによって、開催地責任者の方の負担を軽減することと、開催地でのスタッフの共通認識を持つての運営を目指した。

グループディスカッションでは、3月に発生した震災を教訓に避難経路の確認をメインにサンプル作りを行った。この結果、各地で開催に対する認識が大きく変わり興行主催者としての責任ある開催に変わった。

独自性のある開催地、集客の優れた開催地を表彰(高知県協会、広島県協会、名古屋市協会、岡山県協会)。

(2)第36回プレーオフは、関東都県協会、関東学生の方々のご協力を得て開催。

男子：大同特殊鋼、女子：オムロンが優勝。

2) ハンドボールの普及活動への積極的な参加

(1)各地での講習会へのチームの派遣

(2)日本リーグ開催に合わせた開催地での講習会への積極的参加

(3)第3回男子チャレンジディビジョンの開催

(HC 岐阜・Honda・大同大学・HC・MKA 奈良・八光自動車・HC 春日井・トヨタ自動車・岐阜聖徳学園大学・セントラル自動車・TOYAMA 選抜チーム・OSAKA Selection・同朋クラブ)

(4)女子は、JHL 女子強化キャンプに参加(香川銀行)

3) リーグ戦のレベルアップと東アジア諸国との交流を通じた国際交流

- (1)JHL コーチ研修会の開催と JHL レフェリー講習会の開催に於いて、チーム、レフェリーの統一見解を図った
- (2)東アジアクラブ選手権(中国・栄成市)へ湧永製薬・北國銀行が参加
(湧永製薬 3 位、北國銀行 2 位)

4) 日本リーグ中期ビジョンを具体化

- (1)クラブチームの育成支援(琉球コラソン・HC 名古屋)
- (2)トップリーグ連携機構のトップクラブマネジメント強化と連携

5) メディア対策を更に充実させる

- (1)コーチ研修会でのメディアトレーニング
- (2)リーグ開幕前、プレーオフ前に記者発表を実施
- (3)各チームが、地元 TV、ケーブル TV、地方紙とコンタクト、露出が増えた熊本県と広島県は毎年 1 試合地上波での放映
広島県での放映が NHK でメイプル VS 北國銀行であったので、広島放送局作成の番組を金沢放送局でも放映
- (4)プレーオフ TV 中継は、BS12(TwellV)で全試合放映

6) 各事業

- 4 月・・・東アジアクラブ選手権派遣
- 5 月・・・ヨーロッパチャンピオンズリーグ FINAL4 視察
- 6 月・・・コーチ研修会
レフェリー研修会
- 7 月・・・開催地責任者・GM 合同研修会
- 10 月・・・リーグ戦開幕
- 10 月・・・男子チャレンジディビジョン開幕
- 11 月・・・女子強化キャンプ
- 1 月・・・男子強化キャンプ
- 3 月・・・プレーオフ

7) 競技間の連携

- ・日本トップリーグ連携機構主催の審判研修会へ JHL レフェリー 5 名参加
- ・日本トップリーグ連携機構主催の若手研修会へ各チームより合計 8 名参加

1 1 . 総務に関する事業

- 1) 公益財団法人プロジェクトを中心に、平成 25 年 4 月移行を目指し活動した。
- 2) 定例の諸会議の開催について、開催場所の選択や人員・規模等を勘案し会議費や日程の効率的運営の推進を図った。

- (1)評議員会 6月18日(東京) 2月11日(東京)
- (2)理事会 6月18日(東京) 11月12日(東京) 2月18日(東京)
- (3)常務理事会 4月16日(東京) 7月9日(東京) 9月17日(東京) 11月12日(東京)
12月10日(東京) 1月14日(東京) 3月17日(東京)
- (4)本部長会 5月14日(東京)
- (5)全国理事長会議

第1回：10月6日、山口県周南市で山口国体競技開始前日に開催。「日本のスポーツ界の現状」について市原 JOC 副会長兼専務理事の立場から講話があった。川上専務理事からは「理事長の役割」についてお願いも兼ね説明が行われた。また、事例発表として「小学生チームの拡大について」村木愛知県協会理事長が発表した。同会終了後会場を変え懇親会が行われた。

第2回：2月12日、担当常務理事より主な実施事業について報告が行われた。参加者によるフリーディスカッションを行った。

3) 環境委員会

- (1)スポーツと環境保全問題について、主要大会において会場にポスターやバナーの掲示をし、環境問題の啓発に努めた
- (2)クールビズの実施
- (3)「チャレンジ 25 キャンペーン」で配信される News Leter を都道府県協会・連盟関係者にその都度転送し、啓発に努めた

4) 地方協会へ情報伝達の迅速化に努めた

5) 事務局の業務改善を図った

12. 「がんばれハンドボール 20万人会」サポート会に関する事業

1) 平成 23 年度サポート会員総数（平成 24 年 3 月 31 日現在）

特別会員	4 名
グランド会員	236 名
ファミリー会員	45 名
ジュニア会員	12 名
都道府県ファミリー会員	423 名
都道府県グループ会員	3,526 名
総 数	4,246 名

2) 推進活動

- (1)都道府県ファミリー会員・グループ会員入会の促進
- (2)大会会場における会員の優先席設定

3) 事務局

- (1)毎月の入会・更新作業

(2)打合会の開催・事務処理

13. マーケティングに関する事業

1)マーケティング収入 目標 25,000 千円

- (1)協賛金 12,683 千円(日本代表ユニフォーム広告 2 社分を含む)
- (2)機関誌広告 2,920 千円 / 寄付金 10,800 千円
- (3)物品販売 7,531 千円

2)オフィシャルスポンサー、オフィシャルサプライヤーの確保と拡大

平成 23 年度 6 社

3)既協賛企業はもとより新規協賛企業の確保と拡大

継続協賛企業 33 社 / 新規協賛企業 5 社

4)スポンサー感謝の集いを開催した

平成 23 年 10 月 3 日 岸記念体育会館 101～103 会議室
マスコミ懇親会、2012 ロンドンオリンピックアジア予選壮行会と共催

5)バリューアップ活動

- (1) 2012 ロンドンオリンピックアジア予選壮行会開催 (約 20 社)
- (2) 2012 ロンドンオリンピックアジア予選 TV 中継実施
女子 NHK-BS1 で全試合放映
男子 テレビ東京 - BS で開幕戦を放映
- (3)日本リーグ及びプレーオフ記者発表開催 (それぞれ約 20 社)
- (4)全日本総合選手権大会 TV 放映 (NHK 教育 男子決勝生中継)
- (5)プレーオフ TV 放映
BS12 で男女 5 試合全てを生中継、ジュニアカップ決勝戦も紹介

6)オリジナルグッズ、DVD の企画・販売

- (1>Hello Kitty コラボ商品をプレーオフで販売
- (2)プレーオフ男女 5 試合を DVD 化

7) 協会主催大会のマーケティング指導実施

- (1)ジャパンカップ 2011 東日本大震災の影響で中止
- (2)全日本総合選手権大会

8) JOC、トップリグ連携機構との連携協力でマーケティング力向上をはかった